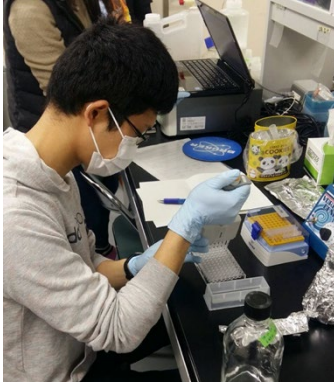


「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

2019年 11月 30日	
所属部局・職	野生動物研究センター・修士課程学生
氏名	義村 弘仁

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
京都
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
Advanced laboratory course
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
2019年 11月 25日 ~ 2019年 11月 29日 (5日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
京都大学野生動物研究センター、木下こづえ助教
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
<p>写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。</p> <p>今回の実習では屋久島実習で採取したヤクシカの糞サンプルに含まれる性ホルモンの濃度を測定した。ヤクシカにおいては繁殖期になるとオスや性成熟前の個体においても糞中から高いプロジェステロン(P4)濃度が検出されることが知られている。P4の主要な代謝産物のPdGについては未だに測定されておらず糞中での動態が不明であったためP4に加えてPdGも測定対象とした。測定の結果、過去の報告と同様にオスや仔鹿においても高いP4濃度が検出され、PdGも同様であった。糞中に含まれている濃度はP4がPdGの3倍以上を占めており、個体のプロジェステロンをモニタリングするにはP4がより適していると考えられた。また、時間経過によって糞中のP4とPdGはともに増加することが確認されたが、増加が糞の水分含量が減少すると緩やかになったことから、糞中の微生物の働きによるものではないかと推察された。なぜオスや仔鹿においてもP4の濃度が高いのかについては未だに不明であるが、妊娠・排卵中のメスザルの糞を摂取しているなど食物による影響ではないかと予想されている。このテーマについては非常に興味があるため、今後の進展に期待するとともに機会があれば関わっていきたいと考えている。</p> <p>5日目の測定後からポスター制作に取り掛かり、12/2のシンポジウムでポスター発表を行った。分析結果やポスターについて英語で議論しながら作るのはあまり経験がなかったことであり、難しさもあったが刺激的な経験でもあった。</p>

<p>図1:ホルモン測定の様子</p>
6. その他 (特記事項など)